

金沢大学法務研究科
2013年度「法理学」小テスト
6月12日1限実施/ 出題: 足立英彦
解答

1. つぎの語句をそれぞれ1~3行で説明せよ。(各2点)

(a) 規範

解答 規範とは、義務様相を含む命題のことである。

(b) 自由

解答 自由とは、作為が許されており、かつ不作為も許されている地位のことである。

2. つぎの推論は論理的に正しい推論(妥当な推論)であるか。真理表を用いつつ説明せよ。(各2点)

(a) $A \models A$

解答

前提	結論
A	A
1	1
0	0

問の推論は、前提が真で結論が偽の場合(反例)がないので、論理的に正しい推論である。

(b) $\neg(A \vee \neg A) \models B$

解答

		前提			結論
A	B	$\neg A$	$A \vee \neg A$	$\neg(A \vee \neg A)$	B
1	1	0	1	0	1
1	0	0	1	0	0
0	1	1	1	0	1
0	0	1	1	0	0

問の推論は、前提が真で結論が偽の場合(反例)がないので、論理的に正しい推論である。

3. つぎの問に答えよ。

(a) 下記の命題 i~iv を、それぞれ、全称記号(\forall)を用いて、及び、存在記号(\exists)を用いて表現せよ。ただし、「~は個人として尊重される」という述語を R, 議論領域を「すべての国民(all of the people)」とする。(各1点)

i. すべての国民は、個人として尊重される。

All of the people are respected as individuals.

解答 $\forall xRx, \neg\exists x\neg Rx$

ii. すべての国民は、個人としては尊重されない。

All of the people are not respected as individuals.

解答 $\forall x\neg Rx, \neg\exists xRx$

iii. ある国民は、個人として尊重される。

Some of the people are respected as individuals.

解答 $\neg\forall x\neg Rx, \exists xRx$

iv. ある国民は、個人としては尊重されない。

Some of the people are not respected as individuals.

解答 $\neg\forall xRx, \exists x\neg Rx$

(b) 上記の命題のうち、以下の (1) ~ (3) の両者の間の関係をそれぞれ一語で述べ、さらに、それぞれの命題の真理値がどのような関係になっているかを説明せよ。ただし、少なくとも一人の国民がいることを前提とせよ。(各2点)

(1) i と iv, ii と iii

解答 矛盾。一方が真なら他方は偽、一方が偽なら他方は真。

(2) i と ii

解答 反対。一方が真なら他方は偽、一方が偽なら他方は真または偽。

(3) iii と iv

解答 小反対。一方が真なら他方は真または偽、一方が偽なら他方は真。

4. 「学問の自由」が憲法で認められている国において、ある人がつぎのように発言した場合、その発言の真偽を述べよ。(各1点)

(a) 「国民は国に対して、学ぶことについて自由でない。」

解答 「学問の自由」とこの命題は矛盾の関係にあるので、偽である。

(b) 「国民は国に対して、学ぶことが命じられている。」

解答 「学問の自由」とこの命題は反対の関係にあるので、偽である

(c) 「国民は国に対して、学ぶことが許されている。」

解答 「学問の自由」はこの命題を含意しているので、真である

(d) 「国は国民に対して、学ばないことを求める権利がある。」

解答 「学問の自由」とこの命題は(したがって、この命題と等値の「国民は国に対して、学ばないことが命じられている」という命題は)反対の関係にある。したがって、この命題は偽である。

(e) 「国は国民に対して、学ぶことを求める権利がない。」

解答 学問の自由はこの命題を(したがって、この命題と等値の「国民は国に対して、学ばないことが許されている」という命題を)含意している。したがって、この命題は真である。

5. つぎの規範と同じ意味の文を、義務様相を意味する語を使わず、「理想世界」という語を使って書きなさい。(各1点)

(a) 太郎は、他人を助けることを命じられている。

解答 すべての理想世界において、太郎は他人を助ける。

(b) 太郎は、嘘を言うことが禁じられている。

解答 すべての理想世界において、太郎は嘘をつかない。

(c) 太郎は、昼寝をすることが許されている。

解答 少なくともひとつの理想世界において、太郎は昼寝をする。

6. 法規範をその名宛人(義務の主体)の違いによって分類する方法を説明し、さらに、その分類方法によって、なぜほとんどすべての法規範が分類できるのかについても説明しなさい。(4点)

解答 法規範は、具体的に名指ししうる特定の人を名宛人(義務を課される人)とする個別的な法規範と、不特定のすべての人を名宛人とする一般的法規範に分類することができる(ここまでは2点)。規範は記述部分と義務様相から構成される命題であるが、その記述部分の真偽が定まらなければ、規範全体の真偽も定まらない。ところで、文の主語は、特定の人(定項)か不特定の人(変項)かのいずれかであるが、文の真偽が定まるのは、前者か、後者のうち主語が全称量化または存在量化されているものに限られる。しかしながら、存在量化された主語を持つ記述部分を含む規範(「誰でもいいから、ある人が~をすることを命じられる」)を法規範として想定することは難しい。したがってほとんどすべての法規範は、特定の人を主語(名宛人)とする個別的な法規範と、不特定のすべての人を主語とする一般的法規範のいずれかである。

解説 2010年度法務研究科定期試験問題2で既出。

7. 講義に対するご意見、ご感想、改善提案等があれば、答案用紙に記入してください。(任意)
回答 板書で、重要な箇所には白以外の色を使ってほしい、というご要望がありました。試みたいと思います。

参考情報(6月13日現在)

履修登録数	受験者数	平均点
12	12	23.3

* 30点1名, 28点3名。